

2016年度

# 大阪府公立高校 一般選抜入試問題分析



## 英語

(A) 基礎・(B) 標準・(C) 発展の3種。リスニングを含む90点満点で、リスニング問題は全種共通、筆記問題は共通部分なし。

試験時間は筆記40分に対し、リスニングは昨年までの10分から15分に延長され、語彙数が1.75倍に。但し、リスニングの得点割合は昨年度より下がりました。

### [A問題]

#### 今年の入試の特徴

大問が5つ。1と2は基礎的な語彙力と文法力を、3と4は基礎的な内容の英文(手紙文と対話文)を読み取る力を、5は3つの日本語のメモをもとに、自己紹介をテーマとした英語での表現力を問う問題でした。

#### その他の注目点

月や曜日の名前といった基本単語の習得や中学3年間の英文法の理解が満遍なく問われました。なかでも、動詞に関する問題が最も多く出題されていました。読解問題では、比較的長い英文が見られた一方で、出題形式は英問英答、内容一致、指示語や整序作文など例年と大きな変化はありませんでした。

### [B問題]

#### 今年の入試の特徴

読む、書く、聞くの3技能の標準的な力を問う問題でした。読む力については、適文選択、英問英答、指示語や理由を読み取る問題で、いずれも例年通りの形式でした。書く力は適語選択と条件付き英作文で、聞く力はリスニングで問われました。英作文とリスニングの出来が合否の決め手になるのではないのでしょうか。

#### その他の注目点

大問1の会話文の語数が400語強、大問3の長文の語数が550語程度でした。大問2の条件付き英作文は、友人を映画に誘う場面を想定した30語程度の英語を書かせる問題でした。

### [C問題]

#### 今年の入試の特徴

語数・出題形式に大きな変化は見られません。また、解答すべき設問数にも変化は見られませんでした。但し、長年出題されていた指示内容を日本語で記述する問題や本文内容の理解を問う英問英答が姿を消していました。

#### その他の注目点

条件付き英作文において、設問の一部が英語で表記されました。2017年度より設問の表記が全て英語になることを意識した、C問題における特徴とみられます。文章テーマは、自然科学や社会問題など多岐にわたります。合教科型に備えて、英語の知識だけではなく、教科を横断する知識・思考力を身につけておきたい。また、統合型問題に対応できるよう、TOEFL型の学習方法が有効になると考えられます。

#### 難易度(昨年との比較)

今年度の特別選抜A問題と比べやや難しくなりましたが、昨年度の後期A問題よりは易くなりました。理由としては長文の語彙数が750語程度から450語程度に減少したこと、表やグラフの読み取りが無くなったことが挙げられます。

#### イングでは…

日々の平常授業での教科書指導を通じ、基礎的な語彙や文法の習得をおこなっています。読解力や表現力の向上についても教科書本文の音読や内容の読み取りをトレーニングすることで実現しています。また、春・夏・冬の講習会においては、入試によく出題される語彙や基本英文の小テストを通して覚え直しをしています。

#### 難易度(昨年との比較)

読む力については、前年後期のA問題とB問題の標準的な問題が組み合わさったレベル。書く力については、英作文の問題がやや難化。リスニングは、前年より5分長く15分間となり、聞き取り語数も約400語から約700語に増えました。

#### イングでは…

3技能向上のために、教科書本文を題材に音読、暗唱、音読筆写、ディクテーションを行います。中学3年生ではそれらに加えて、長文読解教材を用い、音源を聞いて読むなどのトレーニングを通して、速く正確に英語を読み、理解する力を養います。また入試対策教材を用いて、入試英作文の書き方の指導やリスニング問題の演習などを行い、3技能の得点力を高めていきます。

#### 難易度(昨年との比較)

昨年度までの文理学科の問題と比較して、難易度に大きな変化は見られない印象ですが、昨年までの後期B問題寄りのレベルではありません。本文の語数は計1600語程度。傍線部前後に解答の根拠があるような問題はなく、文章全体を通して内容を理解する力が求められます。

#### イングでは…

音読を中心に、4技能(読む・聞く・書く・話す)の習得を目指した統合型授業のカリキュラムを設定。教科書という上質の題材を音読することで、英語を英語として受け入れる力を育み、リスニング力を高めます。また、暗唱やディクテーションを行い、内容理解はもちろん、書く力も養います。上位者を対象とした選抜形式の対策も行っております。

## 理科

#### 今年の入試の特徴

中1~中3の全分野から出題されています。基本~応用問題まで出題されており、一部計算が難しいものがありました。全体的には単語の記述が増え、文章の記述問題はなくなっています。実験や観察を通して知識を問う問題が多く文章量はやや増えています。

#### イングでは…

公立入試では、定期テストに出題されるような基本知識の定着が必要です。そのためイングでは、中1・中2のうちから定期テスト対策を行い、高得点を目指します。また、中3では講習会、合宿等で中1~中3内容の復習を行い、入試に対応できる力を身につけることができます。

#### 難易度(昨年との比較)

昨年と比較すると、易しい問題が増え、幅広い知識を問う問題が増えました。難関校を受験される方は9割以上の正答率が求められるでしょう。

## 数学

### 【A問題】

#### 今年の入試の特徴

今年度のA問題は、過去の公立後期普通科A選択問題とほぼ同じ形式でしたが、空間図形だけの大問が削除され、その代わりに計算問題だけの大問が追加されました。大問数は例年通り4題で、大問1が計算、大問2が小問集合、大問3が規則性、大問4が平面図形でした。小問合計も例年通り、合計25題ほどでした。

#### その他の注目点

空間図形だけの大問がなくなったり、平面図形の証明問題も穴埋め形式になっていたり、規則性の問題も単純な規則のものしか出題されていなかったので、受験生からすると随分易しくなった印象だったと思います。

### 【B問題】

#### 今年の入試の特徴

今年度のB問題は、計算・数量、規則性、平面図形、空間図形の4つの構成になっており昨年と同じでした。数量、平面図形、空間図形の分野でそれぞれ問題が1問ずつ増えており合計21問でした。満点が70点から90点に変更になったからだと思えます。証明問題の配点割合に大きな変更はありませんでした。

#### その他の注目点

相似条件に「2組の辺の比とその間の角がそれぞれ等しい」が出題されたことです。過去20年近く、相似と言えば「2組の角がそれぞれ等しい」ことを前提に条件を探ることが主流でした。また、図形の立体が、完全な三角柱ではなく平行な面のない五面体としての出題であったため、受験生はかなりとまどったのではないかと思います。

### 【C問題】

#### 今年の入試の特徴

今年度のC問題は、昨年度までの文理学科問題と同形式・同分野からの出題でした。大問は大きく分けて3題、大問1は計算・確率・数の性質・関数、大問2は、平面図形（証明を含む）、大問3は空間図形の出題でした。

#### その他の注目点

C問題の注目点は、文理学科問題で出題されていた「関数の性質」・「数の性質」という単元の本質を問う問題が今年度も出題されたという点です。その一方で、昨年度出題された円の性質を利用した平面図形の問題は出題されませんでした。

#### 難易度（昨年との比較）

過去の公立後期普通科A選択問題と比べると非常に易しくなっていました。教科書の例題レベルの問題しか出題されていませんでした。

#### イングでは…

イングは年内に教科書内容の指導を終了、冬期講習会からは過去の公立入試問題の出題傾向を分析したイングオリジナルテキストを用いて、公立入試を見据えた指導を行っています。また、イングの伝統行事である、夏期特訓合宿では関数、正月特訓ゼミでは図形と単元を絞り、得点差のつきやすい単元を徹底攻略します。

#### 難易度（昨年との比較）

問題数は増えましたが、難易度は昨年度までの公立後期普通科B選択問題より易化傾向で、昨年の公立後期普通科A選択問題とほぼ同じレベルといえます。分野別の難易度を見ると、図形分野（証明の相似条件、立体の形）がやや難しくなっており、規則性が非常に解きやすくなっています。

#### イングでは…

イングは年内に教科書内容の指導を終了、冬期講習会からは過去の公立入試問題の出題傾向を分析したイングオリジナルテキストを用いて、公立入試を見据えた指導を行っています。また、イングの伝統行事である、夏期特訓合宿では関数、正月特訓ゼミでは図形と単元を絞り、得点差のつきやすい単元を徹底攻略します。

#### 難易度（昨年との比較）

昨年度までの文理学科問題と比較すると、ほぼ同じ難易度であり、過去の文理学科問題ではよくあった複雑な計算も特にありませんでした。やや易化傾向と感じられます。ほぼ毎年出題されている三角柱の切断は、今年も出題されました。過去の問題を繰り返し何度も解いてきた受験生にとっては解きやすかった問題と言えるでしょう。

#### イングでは…

イングは年内に教科書内容の指導を終了、冬期講習会からは過去の公立入試問題の出題傾向を分析したイングオリジナルテキストを用いて、公立入試を見据えた指導を行っています。また、イングの伝統行事である、夏期特訓合宿では関数、正月特訓ゼミでは図形と単元を絞り、得点差のつきやすい単元を徹底攻略します。

## 社会

#### 今年の入試の特徴

地理・歴史・公民の3分野総合問題で問われています。また、資料や絵、写真から必要な情報を選び出し、学習した内容や知識と組み合わせて答える思考力重視の問題も出題されています。

#### その他の注目点

分野別にみると、地理分野では日本地理の出題が無く、歴史分野が出題数の約5割を占めています。万遍なく全時代から出題され、特に資料を使った問題も出題されるようになりました。公民も歴史同様、万遍なく出題されており、総合的な学習が必要です。

#### 難易度（昨年との比較）

昨年より難易度は明らかに上がっています。昨年は7割以上が記号選択問題であったのに対し、今年は約半分になっています。また記述問題が2問から3問に増えた分、難しかったのではないのでしょうか。

#### イングでは…

1年間で地歴公を学習できる授業・教材・プログラムを提供しております。平常授業では学校内容を先取り学習しますが、12月以降は入試対策の授業を行ないます。また、春夏冬の講習会では、地歴公の3分野を総復習して、入試に対する実戦力を鍛えます。

今年度より、国語問題は、A[基礎]、B[標準]、C[発展]の3パターンの問題を各高校が選択する形式となりました。昨年度の後期入試問題に相当するレベルは、B問題（標準）となります。A問題（基礎）は、B問題（標準）と比較すると、記述式問題の要求字数が大幅に少なく、選択肢問題も4択から3択になっているなど、主に設問において難易度を下げた問題となりました。また、C問題（発展）は、B問題（標準）と比較すると、文章・設問ともに、難易度が圧倒的に高まりました。

**【A問題】**

**今年の入試の特徴**

大問1・大問2の選択問題の選択肢が4択から3択に変化。同じく大問1・大問2からは長い記述問題が消えました。大問3の記述問題の字数が50字程度から30字程度に減少。作文は字数300字以内だったものが160字程度に変更になりました。

**その他の注目点**

記述・作文は得点差が生まれるポイントでした。設問の条件を正確に捉え、条件に見合った解答を作ることに対応できます。また、解答の根拠を本文中に求める基本的な姿勢は身に付けておきたいところです。

**【B問題】**

**今年の入試の特徴**

昨年度までの公立後期普通科の問題と比較すると、ほぼ同じ問題形式でした。70点満点から90点満点に変更されたものの、配点の割合もほぼ同じです。また、昨年度までは課題作文が出題されましたが、今年度は条件作文が出題されました。

**その他の注目点**

漢字の出題に関しては、書き取り問題の配点が1問1点から2点に増え、読みの問題数が減っていました。ただ、やはり注目すべきは条件作文の出題だと思います。昨年度までのように自分の体験だけを書けば良いのではなく、筆者の考えを的確に捉え、自分の意見を根拠とともに述べることが求められます。

**【C問題】**

**今年の入試の特徴**

今年の入試の特徴として、問題数の増加が挙げられます。中でも抜き出し問題は非常に多く、難しい問いも含まれています。条件作文300字も試験時間に含まれるため、時間配分には十分気を配る必要があります。

**その他の注目点**

記述問題の配点は28%、抜き出し問題の配点は27%であり、「記述が重要」なのはもちろん、文章全体から解答部分を探す抜き出し問題への対策が必要です。

**難易度（昨年との比較）**

問題全般にわたり、教科書に掲載されている文章を丁寧に理解し、知識を身に付けていれば十分に対応できるレベルでした。

**イングでは…**

イングでは、普段から文章読解中心のカリキュラムで授業を行っています。初見の文章を読み解く技術、記述問題の解答技術を伝え、繰り返しトレーニングを行います。この積み重ねによって、入試に必要な力が必ず身に付きます。

**難易度（昨年との比較）**

設問を細かく見ていくと、抜き出し問題がやや増えて、記述問題がやや減っています。また、古文の大問に記述問題の出題はなく、文章自体も昨年度と比べると読みやすいものになっていました。ただ、難易度自体は概ね例年通りと言えるでしょう。

**イングでは…**

条件作文でどれだけ点数を取るかで高得点を狙えるかどうかが決まる、と言っても過言ではないでしょう。前述の通り、文章中から筆者の意見を正確に読み取る力と、自分の意見を根拠を踏まえて書く力が求められます。イングの国語の授業では、記述問題の練習を中学1年生からしっかり行い、その2つの力を基礎からきっちりと身につけていきます。

**難易度（昨年との比較）**

昨年度までの文理学科問題と比較すると、全体的に難化傾向にあります。記述問題と前述の抜き出し問題の一部は特に難しくなっています。文章中の語句をそのまま引用するだけでは解答を作成することはできません。また、古文は文章量、記述文字数が倍増しています。

**イングでは…**

初見の文章題を読んで、筆者の意図を理解する読解力を平常授業内で1年生から鍛えていきます。また、記述問題、抜き出し問題の解答を作成する力をパターン別に繰り返し練習することで、身につけていきます。

